

てらこや開講20周年記念

OKAYAMA Special Talk Session vol.02

JAKEN編集部 嘉地編集長 × 学習塾てらこや 川島塾長

■ 今回のテーマ ■ 「県北にこだわる理由」

作州地域にゆかりのある方々と、川島が地域活性化と魅力について対談していきます。対談お一人目は、『岡山県北タウン情報誌JAKEN編集部』編集長 嘉地好治さんです。

嘉地 まさか自分たちで作っている雑誌で対談が出来るのは(笑)。よろしくをお願いします。

川島 JAKENさんとはかれこれ16年程のお付き合いですね。創刊されたのはいつ頃ですか？

嘉地 「オアシス」という雑誌から独立し、今のJAKENを発売して18年になります。

川島 JAKENさんのお仕事の中で楽しさは何ですか？

嘉地 この業界はたくさんの方との出会いがあり、楽しく生き生きと今を輝いている人ばかりなんです。取材に行った際、一生懸命さが伝わってきて、そういった方々との出会いが、この仕事の非常に楽しいところでもあります。スタッフも楽しく生き生きと仕事をしていると思います。逆に楽しくないと相手にも伝わりませんから。

川島 いろんな方と関わる分、仕事量が凄いならうなというイメージがあります。

嘉地 飲食店、美容院、自動車屋、観光業、製造業、またてらこやさんのように塾など、本当に多業種に渡って関わらせていただいています。業務としては、編集スタッフ全員が、営業、取材、編集、制作、企画など、フルパワーを發揮しています。

いと思っています。スタッフに割り振る仕事の内容も、ある程度、適材適所を考えています。

川島 業務で大切にしていることは何ですか？

嘉地 スタッフをとにかく大切にすること。思いや意見を言いやすい雰囲気づくりをしようとしています。みんなで意見を出し合って、一つの物を作り上げて完成していく仕事なので、自信を持って作って、自信を持って発刊するようになっています。

川島 色々な苦労があると思います。が、ストレス発散方法は？

嘉地 このご時世ストレスがよく聞きますが、それが私感じゃないんですよ。自分の立場・年齢・環境を踏まえ、と必ず何かしらあるものなんです。プレッシャーや負担は、あつて当然ですし、経営者なら乗り切らなくてはいけません。

川島 今回のテーマでもある、県北へこだわる理由がありますか？てらこや自身も県南に進出するつもりはなく、県北で広めるのであればJAKENさんに出すという思いがあります。

嘉地 ありがたいと思います。よく言われるんです。「もう少し足を伸ばして県南まで行かれたら？」って。でもそれをやってしまうと、県北情報誌としての意味がないと思うんです。人口が減っている中で、「地元への貢献」「地元を元気に」というのは一番の課題です。県北の各エリアを取り上げて、それを読まれた読者さんに足を運んでもらい、そのエリアが少しでも活気溢れるようになっていただければというのが、私たちの役割だと思っています。川島 なるほど。てらこやも、自分以

川島 企業さんのニーズに応えるように記事にされているようですが、締切まではどういった流れですか？

嘉地 締切までの18日間を稼働日と呼んでいます。基本的にこの稼働日は、それぞれが受け持っている仕事をします。要は、自己管理、自己責任、自分との戦いですね。

川島 それで締切までに仕上げるって凄いですね。

嘉地 もちろんそれまでに何度かミーティングをして状況を把握しています。ミーティングも途中の時間にするのではなく、出来るだけ朝一からするようにしています。朝一からすることで、その後の予定を組みやすく、効率良く行動が出来るので。

川島 特集や企画はどうやって決めているんですか？

嘉地 スタッフ全員で、基本的に1年分の企画を出し合って決めていきます。初めての企画の時は、正直「大丈夫かな」と思っていることもありますが、いざやってみると好評だったりするんですよ。スタッフの発想力は、さすがだなと思います。ただ、毎年のことなので正直ネタ切れになってくることもあるんですが、見せ方を変えたり、読者さんの意見を参考にしたりしています。方針としては、編集部としてしっかりとストーリー・コンセプト・テーマを持った上で決めるようにしています。

川島 JAKENさんの仕事で向いているような人って？

嘉地 向いている人：誰でも得手不手は必ずあると思うんです。私は、スタッフの苦手なところを伸ばそうとはまったく思っていないんです。逆に良いところを伸ばし、どんどんやって欲しい

外の誰かに任せてしまえば県北以外にも進出できますが、でもそうすると質は絶対下がってしまうし、県北に特化して、てらこやにしか出来ない理想の教育を地域の人たちと作り上げたいんですよ。

嘉地 インバウンドでどんどん観光客を呼んで観光で賑やかにして、街を活性化したいというのも一つの選択肢だと思います。コロナ禍である今、地元を目を向けるべきだと思います。

川島 そうですね。内需というかそれぞれのエリアで経済活動するしかないと思うんです。外に行くことが出来ないからこそ、地域の人で地域を盛り上げる。私も先日子ども2人と、車ではなくこんごバスで町を回ってみました。いつも通らない旧道沿いを回って、途中で歩いたりして、最後は津山駅から高野駅まで電車に乗って。これがちょっとした旅行気分になって、子どもも喜んでましたし、私もワクワクしました。

嘉地 それは凄く良いですね！JAKENでも「〇〇を歩こう」という色々な町を紹介するコーナーがあります。住んでいても知らないことがまだまだたくさんありますね。

川島 では最後に！デジタル化が進んでいる中、紙媒体として打ち出しているJAKENの今後は？

嘉地 デジタル化、これは避けては通れないです。ただ、紙媒体の良いところもあるので紙媒体も大切にしながら、慎重に進めています。この間もファンなんです。これを紙媒体是非守ってください！と言われ嬉しく思いました。よりみなさんに興味を持っていただけるように、これからもやっていきます。



(右) 2003年発行、JAKEN創刊号
(左) 2020年発行、JAKEN創刊200号



より良い雑誌をお届け出来るよう、毎月ミーティングでスタッフ全員意見を出し合い、企画を練りに練る。



2017年9月に現在の社屋に。



(株)スタジオア・ピアント
岡山県北タウン情報誌JAKEN編集部
代表取締役
編集長 嘉地好治 かじよしと
1959年7月22日生まれ。
(原辰徳と同じ誕生日。大の巨人ファン)
兵庫県出身。津山市育ち。
津山工業高等学校卒業。
印刷会社で営業として30年務めた後、現在の会社に転身し編集長として務める。

(株)てらこや
学習塾てらこや
代表取締役
塾長 川島敦典 かわしまあつり
1975年12月12日生まれ。津山市出身。
津山高等学校、島根大学理学部物理学科卒業。
当時津山市では珍しい個別指導塾を2002年に開講。
2012年、教育系YouTuberの先駆けとして、「てらtube」を公開し全国から大きな反響を呼ぶ。
現在3つの教室を持ち、来年の4月に開講20周年を迎える。



北園教室
津山市北園町9-13

てらこやNEWS

小・中・高全学年とも2学期生を募集中!!
まずは無料体験をお申し込み下さい。

▽
▽
▽

詳しくはHPもしくはお電話で。

てらこや 1本の電話で1歩前進!迷っているなら、まずお電話を
☎0868-20-1090
受付時間/月~金曜13:00~20:00、土曜13:00~18:00

てらこや開講20周年期間中の限定対談
不定期で連載していきます!!